



今回のナビゲーターは  
山本 賢司 教授 です

# ケインズ 『雇用・利子および 貨幣の一般理論』 (初版)



ケインズ  
『一般理論』



マルクス  
『資本論』

1990年代のわが国の不況は、しばしば30年代の世界恐慌と比較されてきた。両者には類似点も多いが、異なるところも少なくない。その30年代の恐慌が残した最大の知的遺産が、ここで紹介するジョン・メイナード・ケインズ(1883-1946)による『雇用・利子および貨幣の一般理論』(1936年)である。

本書において、イギリス人経済学者ケインズは、不況の原因は需要の不足であり、自由放任のままでは失業は解消しないと論じた。意識せずともケインズの影響を受けている現在の世代には、新しい響きをもつ論調には聞こえない。だが、不況に喘ぎつつも自由放任の思想が支配的だった30年代当時、『一般理論』は刺激に満ちた書として受け止められた。

5年間の徹底した議論と改稿を経た本書の、第1ページは「私は本書を、一般という接頭語に力点を置いて、『雇用・利子および貨幣の一般理論』と名づけた。このような題名をつけた目的は、私の議論と結論の性質を、同じ問題に関する古典派理論のそれと対比しようとするところにある。」(塩野谷祐一訳)と、始まる。この自信に満ちた宣言が、後に「ケインズ革命」と呼ばれる思考の転換を巻き起こした。

本学は、1936年2月に刊行された本書の初版第1刷を所蔵している。本蔵書は20世紀を代表する経済学の古典の1冊であり、将来には貴重書となるであろう。本書は大野純一名誉教授の旧蔵書1,280冊からなる大野文庫の1冊であり、この文庫には、カール・マルクス(1818-83)の『資本論』第1巻「ドイツ語初版(1867年)」を始めとする多くの貴重書が含まれている。

## 学生評判記 / 第5回



「阿呆亭」 小樽市花園1-6-6  
TEL.0134-32-6962

店主 / 細井 玲智子さん

「これからの女は男と同等に生きる。  
<女は女らしく>というのは古い」、  
父からそう言われて育ちました。

何とも懐かしく、何とも怪しげな雰囲気をもつ酒場。ドライフラワーに囲まれた店内には、昭和49年4月の開店当初から所有するジュークボックスが置かれ、今ではすっかり馴染みがなくなったレコードの音を楽しませてくれる。

店主の細井玲智子さんに客として訪れる歴代の本学関係者について伺ってみると、店を始めて最初の10年くらいは学生、その後は先生が多く来店したという。「昔はメチャクチャだった。先生と学生がいっしょに来ると、激しく罵り合って喧嘩していました。でも、昔は飲み方にも節度がありましたよ。今の学生は、飲み



方がきれいで悪酔いしなくなったけれど、(一気飲みの問題ではなく)飲み方を知らないし経験が不足しています。店名が示唆するとおり、ここはだれでもアホになるまで酒が飲める場だ。古きよき時代、若者たちは正しくアホになれた。一気飲みのような愚行は論外であった。

30年にわたり、商大生をとおして時代の流れを見てきた玲智子さん。最後に、こんなことまで教えてくれた「昔は商大生というだけでモテモテでした。わたしの初恋の人も商大生だったのよ。だから、商大生がお客として来てくれると嬉しかったんです」